

女子相撲 小中学生団体で全国制覇！

7月17日に岐阜メモリアルセンター相撲場において「ぎふ清流国体開催記念第13回全日本女子相撲岐阜大会」が開催されました。

小・中学生団体トーナメントに出場した「丹代道場」の木造中3年生の長谷川心響さん、柏中2年生の川浪鈴菜さん、舞戸小（鱒ヶ沢町）6年生の赤石璃愛さんの3人が落ち着いた相撲で力を発揮、見事全国制覇を成し遂げました。また、長谷川さんは、出場した中学生中量級の個人戦でも準優勝に輝きました。

この日、選手たちは市役所を訪れ、今副市長に優勝の喜びを語りました。大将を務めた川浪さんは「緊張したけど、1番1番しっかり自分の相撲を取ることができた。皆で協力することができてよかった」と振り返りました。

今副市長は「市にとって大変誇らしい良いニュース。普段の厳しい練習で心技体を鍛えているから優勝できたと思います。今後もがんばってください」と称えました。



胸を張って日本一を報告する赤石さん(左)、長谷川さん(中)、川浪さん(右)

にぎわいを見せた 三新田まつり

7/22 有楽町



大勢の見物客を魅了したヒップホップダンス

7月22日と23日、木造の夏の夜を彩る「三新田まつり2022」が有楽町・千代町の商店街で開催されました。

歩行者天国として開放された路上では、至る所でダンスやジャズ演奏、大道芸など多彩なパフォーマンスが披露され、訪れた見物客が足を止めて見入っていました。

また、出店も軒を連ね、多くの市民たちでにぎわいました。

7月20日には、下木造地区のカッパ広場周辺で伝統の「灯ろう流し」も開催。それぞれの願いが込められた灯ろうが古田川を流れていました。

世界遺産登録1周年 JTBなどがツアーを企画

この日、「つがる市『亀ヶ岡遺跡』貢献活動と津軽鉄道沿線の魅力再発見の旅」が開催されました。

このツアーは、北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産に登録されてから1周年を迎えることから、さらなる機運を醸成し、地元の魅力を再発見することを目的に、(株)JTB青森支店、JTB協定旅館ホテル連盟青森支部およびJTB津軽会が主催しました。

ツアーに参加した20人は、ごみを拾いながら亀ヶ岡石器時代遺跡を見学したり、出土した土器の洗浄を体験したりしました。

八戸から訪れた参加者は「もともと縄文に興味があった。ごみ拾いをして地域に貢献できるツアーは珍しい。貢献できてうれしい」と話していました。

7/23 亀ヶ岡石器時代遺跡



ごみを拾いながら遺跡を巡る参加者たち

英語を使いこなす児童生徒

7/29 つがる地球村



一人一人英語で自己紹介する児童生徒

国際化に対応して夢を実現する人材を育成しようと「Enjoy! English Day at つがる地球村2022」が行われました。

今年は小学6年生も募集対象に加わり、市内から小中学生45人が参加。西北管内の外国語指導助手(ALT)8人が講師となり、児童生徒は日本語を使わず全て英語でコミュニケーションをとりながら、クイズやゲームなどの活動をしました。

稲垣中2年生の佐々木麻緒さんは「習った英語を使って自分の考えを伝えることができました。体を動かして英語の練習にもなり一石二鳥。英語の理解が深まった」と話しました。

活動を終えた児童生徒の輝く笑顔からは英語に自信がついた様子が伺えました。

農作物を盗難から守れ！パトロール隊出動

市特産のメロンやスイカなどを盗難被害から守ろうと、毎年収穫時期に合わせて、つがる警察署や市防犯協会などが「メロンロードパトロール隊」を結成し、盗難防止に努めています。

この日、市役所前で出動式が行われ、市防犯協会会長の倉光市長が「鱈ヶ沢町でスイカが400個、木造でトウモロコシが1,200本盗難被害に遭っています。メロン・スイカが最盛期を迎え、一丸となって農産物・ブランドを守っていきましょうのでご協力をお願いします」とあいさつを述べました。

つがる警察署の角田哲治署長は「生産者が長期間にわたって丹精込めて育て上げた農産物を盗むという行為は、苦勞を一瞬にして台無しにする極めて悪質で決して許されない犯罪。警察や防犯協会など関係機関が連携し積極的なパトロールをお願いします」と激励しました。

7/29 市役所前



角田署長と倉光市長にパトロール強化することを決意表明する市防犯指導隊藤本正彦総隊長(右)

車力中柔道部が県中体連で快挙！

7/29 市役所



東北大会・全国大会での活躍を誓う車力中柔道部の皆さん

7月17日・18日に八戸市体育館で第73回青森県中学校体育大会夏季大会柔道競技が開催されました。

出場した車力中柔道部は、女子団体が2連覇、男子団体が3位、個人戦でも男女5人が優勝を飾る好成績を収めました。この日、選手たちは、その喜びと出場する東北大会および全国大会への抱負を倉光市長に報告しました。

3年生の葛西萌恵さんは「東北大会・全国大会では昨年の記録を超えられるように自分の柔道をして1試合でも多く勝ちたいです」と抱負を語りました。

倉光市長は「まさしく快挙と言える成績。東北大会、全国大会で、ひるむことなく自分の力を出してがんばってください」と激励しました。

こわいおはなし会 怪談を堪能

この日、市立図書館6周年を記念し「こわいおはなし会」が開かれ、参加した親子連れは怪談の読み聞かせて涼を楽しみました。

会場は明かりが落とされ、市立図書館の藤田秀樹さんが、抑揚をつけた語り口で紙芝居「たべられたやまんば」や絵本「いるのいないの」などを読み聞かせると、子どもたちは怖がった表情を浮かべていました。

家族で参加した柏小4年生の越佳奈子さんは「こわい話が好きなので面白かった。もっとこわくても大丈夫」と感想を話しました。

このほかにも、市立図書館では6周年を記念し、西北五地区が取り上げられた小説などを紹介したパネル展示（7月26日～8月28日）や8つの指令をクリアすると景品がもらえる「図書館deビンゴ」（7月31日）が行われました。



7/30 市立図書館

真剣な眼差しを紙芝居に向ける子どもたち

終戦から77年 戦争の悲惨さと平和の尊さを後世へ

8/2 松の館



白菊を献花する出席者

この日、戦没者追悼・平和祈念式が執り行われ、遺族や関係者約35人が市の戦没者1,325柱の御霊を悼み、不戦の誓いを新たにしました。今年も昨年に引き続いて、新型コロナウイルスの感染予防のため、人数を制限しての開催となりました。

式典では、倉光市長が「終戦から77年、私たちが当然のように享受している平和と繁栄は、戦禍の中で尊い命を捧げられた戦没者の方々の犠牲のもとに築かれていることを忘れてはなりません」と述べました。

遺族を代表して市遺族会の高橋滋会長が「ロシアによるウクライナ侵攻で、現地の痛ましい状況が報道されている。まさにかつて日本が経験したことと重なる。遺族会が過去の記憶を今に伝え、平和を守るために尽力する必要がある」と追悼の言葉を述べました。

その後、参列者一人一人が祭壇に白菊を献花し、戦禍で尊い命を落とした戦没者に思いを馳せていました。

縄文遺跡ジュニアガイド体験を開催

この日、市教育委員会とNPO法人つがる縄文の会が、地域の宝である亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚への親しみと理解を深めてもらいたいと、小学5・6年生および中学生を対象に「つがる市縄文遺跡ジュニアガイド体験」を開催しました。

松の館で行われた座学で世界遺産や縄文遺跡に関する基礎知識を学んだ後、参加者たちは亀ヶ岡石器時代遺跡に移動し、遺跡ボランティアガイドの三上眞理子さんに解説してもらいながら遺跡を見学。途中、児童生徒たちも原稿を手にとりガイドに挑戦してみました。

参加した稲垣小5年生の竹谷颯太くんは「資料だけでなく自分で説明を付け足しているところが難しいと思った。ガイドさんが簡単にやっています」と感想を話しました。



8/4 縄文遺跡案内所

ガイドの三上さんの解説に耳を傾ける参加者たち

児童の夏休みの宿題をサポート

8/5 しゃこちゃん温泉



高校生に教えてもらいながら問題を解く児童たち

子ども食堂の運営などに取り組んでいるチームなないろ(川村沙織代表)が市内の小学生を対象に「夏休みの宿題サポート」を開催。五所川原高等学校の生徒6人もボランティアで協力し、集まった児童23人にワークブックの丸付けや分からない箇所を解説していました。

参加した向陽小3年生の粕谷蒼音くんは「教えてもらって意味が分かった。説明が分かりやすかった」と笑顔。ボランティアに参加した五所川原高校3年生の高橋大珠くんは「説明が分かりやすかったと言ってもらえてうれしい。これからも率先してボランティアに参加していきたい」と話しました。

チームなないろ川村代表は「今回、対象を市内全域に広げて開催しました。多くの人に協力してもらって助かります」と話しました。チームなないろでは冬休みにも宿題サポートを開催する予定です。

縄文土器づくりに挑戦！

8月6日・7日、縄文文化や遺跡について理解を深めてもらいたいと、市内の小中学生を対象に縄文土器づくり体験が開催されました。

この日は、小中学生とその家族5組が参加し、講師を務める津軽亀ヶ岡焼きろ庵の陶芸家一戸広臣さんに教わりながら、縄文土器を制作。粘土を平たく円形状に伸ばして土器の底になる部分を作ってから、ひも状に伸ばした粘土を底部分の縁に沿って積み重ねて側面を作り、最後に縄の文様をつけて作品を仕上げました。作った土器は、一戸さんが乾燥させ、窯で焼いて完成します。

おじいちゃんと一緒に参加した車力小2年生の工藤ゆきさんは「ハート型にうまくできた。出来上がったら折り紙を入れるのに使いたい」と完成を楽しみにしていました。

8/6 松の館



おじいちゃんの手も借りて土器を作りました

メロン・スイカフェスティバル開催

8/7 つがる地球村



旬のスイカを買い求める来場者たち

この日、つがるブランド推進会議主催のメロン・スイカフェスティバルが3年ぶりに開催されました。

5・6玉入りのタカミメロン1箱が3千円、紅まくらや羅皇(らおう)のスイカも大特価で購入できる販売ブースには、早朝から長蛇の列ができました。

また、出店では姉妹都市白老町特産の毛ガニや白老牛ハンバーグをはじめ、メロンのフルーツサンド、メロンスムージーなどが人気を集めていたほか、キッチンカーも集合し、からあげやピザを買い求める人たちでにぎわっていました。

ステージでは、よさこい知求群会の演舞、仮面ライダーライブショー、りんご娘・ライスボール・坂本サトルさんのライブも行われ、観客たちは拍手を送ったり、一緒に振り付けを楽しんだりしていました。